

第37回 こころの未来セミナー

Grief Therapy: Clinical Applications of the Continuing Bonds with the Deceased

死別悲嘆の治療法～故人と続く絆の臨床的応用



Simon Shimshon Rubin, Ph.D

イスラエル・ハイファ大学
国際死別悲嘆研究所長



Ruth Malkinson, Ph.D

イスラエル・ハイファ大学
国際死別悲嘆研究所・副所長

身内や愛する人を亡くすと、遺族は精神的打撃を受け、残りの人生が激変する事もあります。周囲の支援によって自然に立ち治る人もいますが、そうでない場合は、心理療法も一助と成り得ます。ルービン教授とマルキンソン教授の「2路線悲嘆モデル (Two-Track Model of Bereavement)」は、世界的に知られていますが、今回、こころの未来セミナーでは、両教授ご自身に、その臨床的応用を説明して頂きます。本講演は、亡き故人との絆を捨て、忘れるよりは、故人との「続く絆」を重要視して、CBT (認知行動療法) やREBT (論理・感情心理療法) の臨床例を紹介しながら、遺族に対して心理士がいかにカウンセリング法を選べるのかを提案します。

※今回のセミナーは英語で行われます。

2016年 7月19日(火) 15:00～17:00 (受付開始14:30)

受講資格: とくにありません 受講料: 無料 申し込み: 不要

京都大学 稲盛財団記念館 3階 大会議室

(京都市左京区吉田下阿達町46〔吉田キャンパス川端近衛南東角〕)

<http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/jp/about/access.html>

